

# かほくワークシート

日本には「二十四節気」と「七十二候」という季節の感じ方がある。元は中国からの輸入だが、日本の季節風土に合わせて独自のものになった部分もあるようだ。「二十四節気」とはおおよそ15日に1度季節が変化し、「七十二候」とはほぼ5日ごとに気候の気配が変わるといふ感じ方で、

## ■小寒

誠に農耕民族らしい繊細さだ。今年の二十四節気では1月6日は「小寒」。これから寒さが厳しくなるよ、というのだ。しかし七十二候では「芹乃采(せりすなわちさかう)」。なんと、これから寒さが厳しいと言いなながらセリはもう目覚めてますよ、と

日 1/3  
月 4  
火 5  
水 6小寒  
木 7七草  
金 8  
土 9



絵・おぐらひろかず

## 風のうた

さだまさし

矛盾したことを言うのである。実はこれが日本人の心を支えている「希望」の正体のひとつ。寒くなるけれども春は近いよ、と自らに言い聞かせることで、これから来る本当の寒さに立ち向かおうというわけだ。

ところで、1月5日は僕が生まれて初めて人前でヴァイオリン・コンチェルトを演奏した日だ。それは6歳の正月明けのこと。長崎県社会福祉会館で行われた「長崎音楽院」の発表会で、僕はフリードリヒ・ザイツ作曲の5番を弾いた。初心者用の協奏曲だ。

心臓が口から飛び出しそうなほど緊張したので、その日にちを忘れない。もしかしたら僕が初めて「緊張」と出会った日かもしれない。故郷長崎はどちらかといえば日本海側の気候に近いので、この時期は雪のちらつくようなころのはずだが、その日の寒さやお天気など、一切覚えていない。ただ、僕の演奏に母が大喜びをした、その笑顔だけは覚えている。

(シンガー・ソングライター、小説家)

(2016年1月3日河北新報朝刊)

①今年の二十四節気で、「小寒」は1月6日です。では、「大寒」はいつですか。カレンダーや暦で調べてみましょう。

今年の大寒は 月 日

②筆者が6歳の1月5日の思い出で、覚えていることと覚えていないことを、本文中から書き抜きましょう。

・覚えていること ( )

・覚えていないこと ( )

年 組 名前

(小学校高学年以上/国語、家庭学習)